

... ..

... ..

Y R V O D F N P W P T D B M U X B E E V X
Y F R V F O D F N P W I P

i s p a c e

ミッション3 アップデート
2023年9月28日

M R V Z I F N P M L Y G D B M U P Y E S L X
M F R V F Z I F N P M K Y
N P M L Y

本資料の取り扱いについて

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予想に関する記述には、既知及び未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の結果や業績は、将来予想に関する記述によって明示的又は黙示的に示された将来の結果や業績の予測とは大きく異なる可能性があります。

これらリスクや不確実性には、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

本日のハイライト

- **1. M3スケジュールの変更:**

Team Draperの一員である当社米国法人は、搭載予定のNASAの一部ペイロードにより慎重な取り扱いが必要となったことを踏まえ、開発スケジュールの見直しを実施。また一部の長納期品の調達に遅延が発生。この結果、ミッション3の打ち上げを2025年から2026年に変更

- **2. 今期業績予想の修正:**

本スケジュールの変更により、今期計上予定であった売上は約31億円減少見込み。今期のミッション3の売上原価の計上遅れにより、来期以降に売上が繰越されることが主な要因(原価回収基準)。ミッション全体の売上見込みの純減は限定的

- **3. 引き続きM3の着実な実行を目指す:**

M3ランダーの開発はすべてのPDRを完了し、今年度中にCDRも完了予定。M3ランダー「APEX 1.0」の新デザイン及び改良されたスペックを本日発表。米国法人のマネジメント体制も強化され、Mission3の着実な実行と、NASAを中心とする更なる需要の開拓を目指す

ミッション3 アップデート



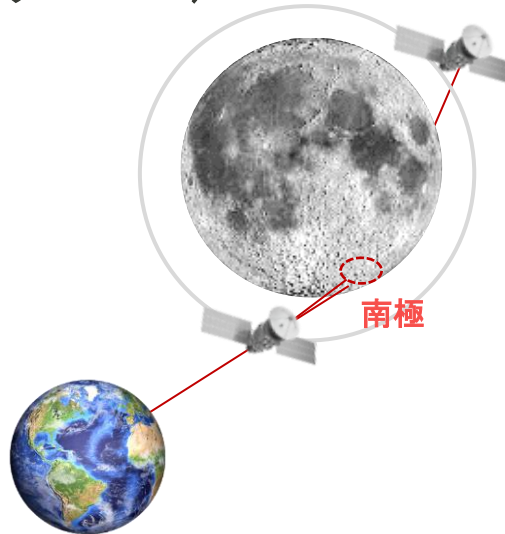
M3概要

当社米国法人は、Team Draperの一員としてNASA CLPSプログラムを受注済みであり、NASAのペイロードをミッション3で輸送予定。引き続き、その他グローバル顧客を開拓中

NASA CLPSプログラム*

(タスクオーダーCP-12)

- 契約総額:
約55MMドル
(受注総額 : 73MMドル)
- 想定ペイロード重量 : **95Kg**



*NASA Commercial Lunar Payload Services プログラム
NASAが民間企業に月へのペイロード輸送を有償で委託するサービスプログラムであり、2028年を通じて26億ドルの予算計画⁽¹⁾

その他グローバル顧客

複数の民間顧客と最終契約化に向け協議中
(直近で米民間企業とのPSA⁽²⁾締結に合意)



(1) Commercial Lunar Payload Services (<https://www.nasa.gov/content/commercial-lunar-payload-services>) (2) Payload Service Agreement (PSA) : ペイロードサービス契約書

新たなミッション3の打ち上げスケジュール

2026年

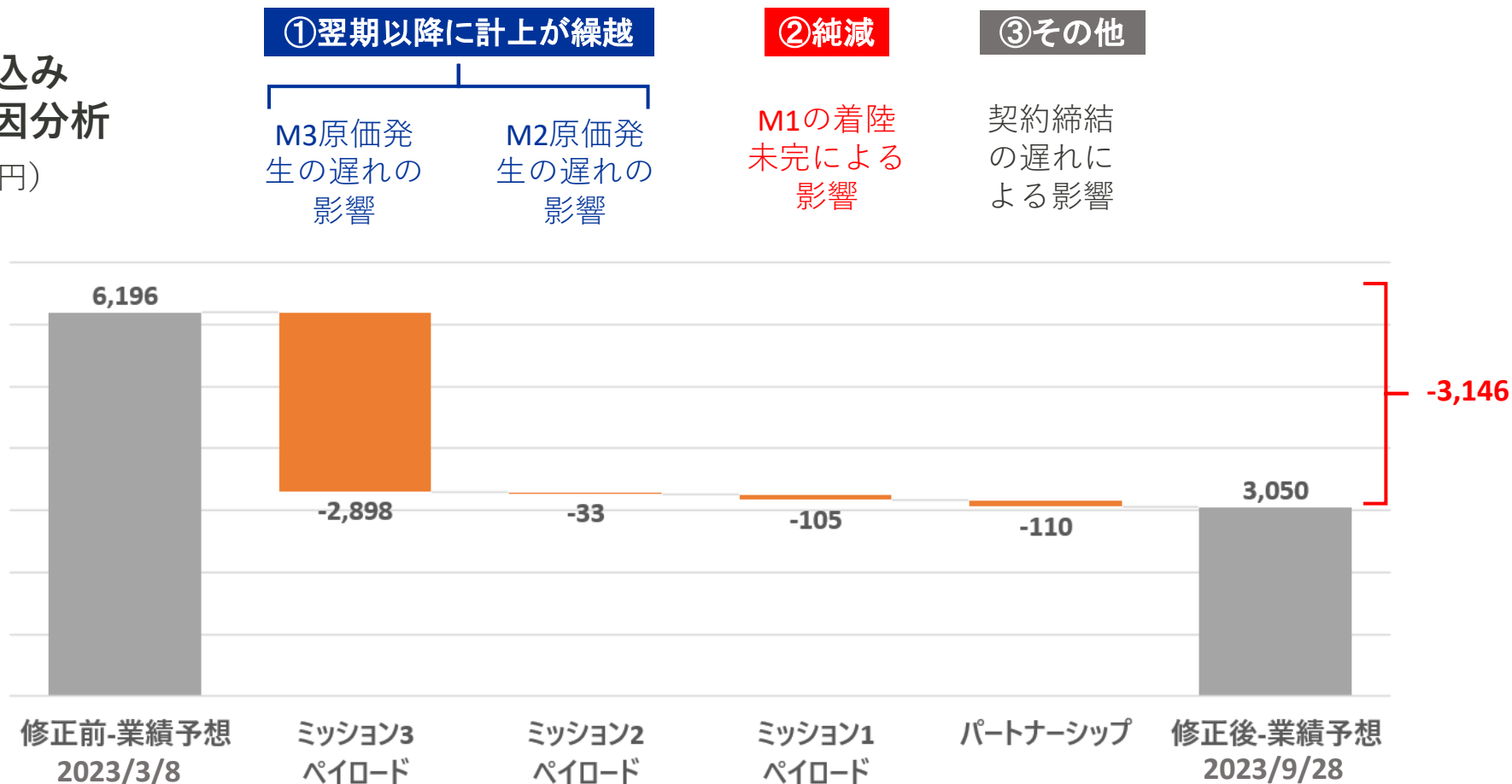
スケジュール変更の理由

- 搭載予定のNASAペイロードの一部について、より慎重な取り扱いが必要となり、チーム・ドレイパーとispace U.S.にて開発計画の見直しを実施
- ランダーに使用する長納期品の一部の調達に遅れが発生

今期計上予定であった売上は、約31億円減少見込み。ミッション3の売上原価の計上遅れにより、同額分だけ売上高も減少することが主な要因(原価回収基準)。ミッション全体の売上見込みの純減は限定的

売上高見込み 減少の要因分析

(単位：百万円)





A P I O N E E R I N E X P L O R A T I O N

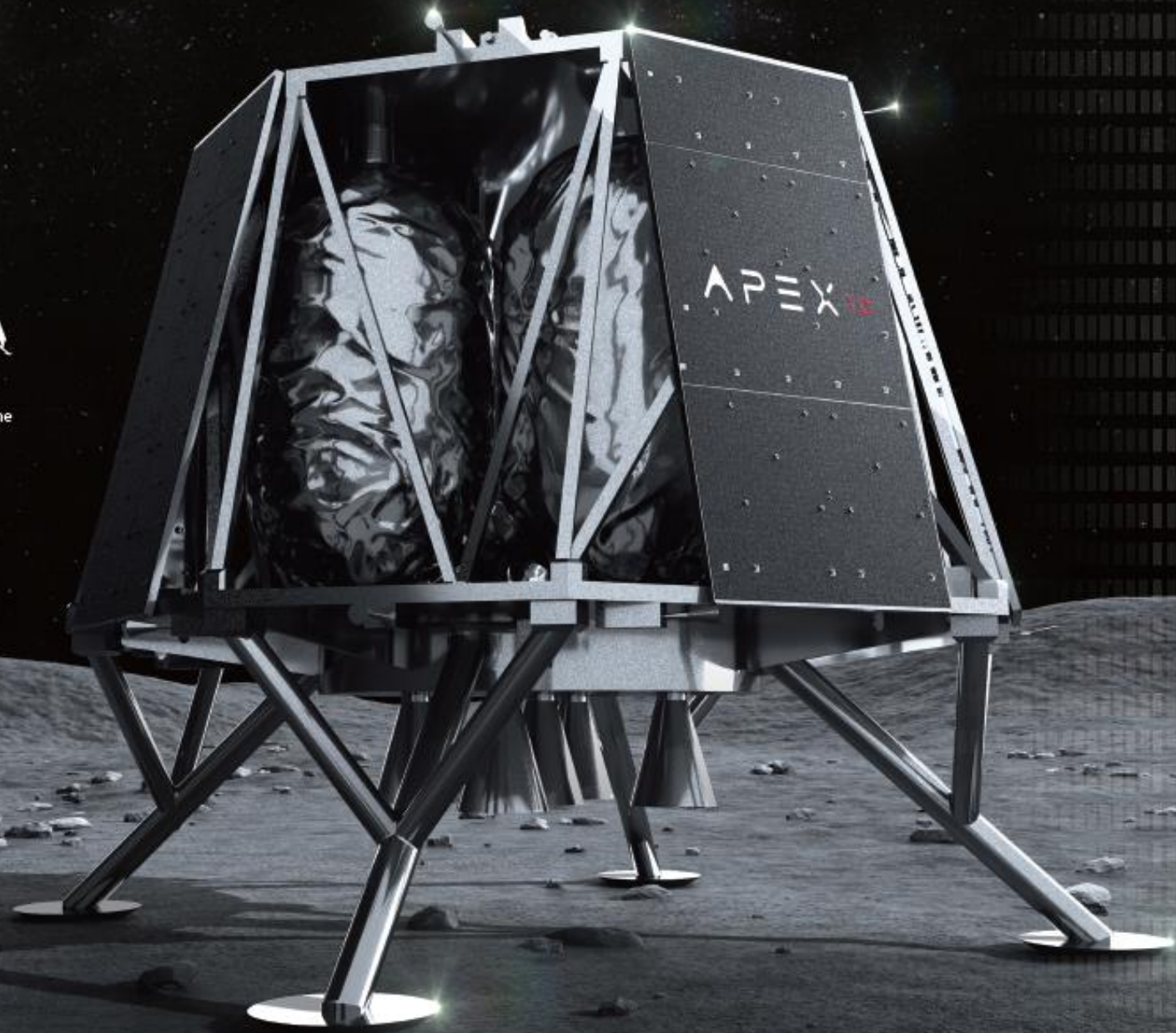
APEX 1.0

A PIONEER IN EXPLORATION



ispace-US is proud to introduce our new lander design, now known as APEX 1.0. It represents the first iteration of an ever evolving lander to meet all customer needs, both government and commercial. This new lander is A Pioneer in Exploration that will continue to advance, accelerating our ability to explore the Moon and beyond.

[LEARN MORE](#)





APEX 1.0 – A PIONEER IN EXPLORATION

- シリーズ I ランダーの約10倍以上となる最大300kgのペイロードの輸送が可能。将来的には、APEXシリーズのペイロード容量を段階的に増加し、最大500kgのミッション搭載可能ペイロード容量への到達を計画
- 地球と月との間の直接通信をサポートするリレー衛星を搭載する専用ペイロードエリアを完備
- 多様なペイロードを月の裏側または表側の極域や赤道域に輸送可能
- 慎重な取り扱いを必要とするペイロードを保護可能な高度な防振機能
- ランダーの主構造の耐久性、信頼性、製造性を向上させ、ペイロード搭載可能エリアの広範囲に渡って一貫した機械環境性能を実現

ロナルド・ギャレンがUS CEOに就任後、ispace Technologies U.S.の強力なリーダーシップ体制を構築



Ronald J. Garan Jr.
U.S. CEO

- NASA Astronaut
- US Airforce
- World View



Daniel Hinson
U.S. Executive Vice President,
Engineering

- Spirit AeroSystems
- American Airlines



Ryan Whitley
U.S. Executive Vice President,
Business Development and
Programs

- NASA
- National Space Council



Elizabeth Kryst
U.S. Executive Vice President,
Operations

- World View
- Moog Space and Defense
Group

A dark, atmospheric landscape with a starry sky and a rocky foreground. The scene is dimly lit, with a few bright stars visible in the upper right corner. The ground is dark and textured, with several large, dark rocks scattered across it. The overall mood is mysterious and serene.

2024年3月期 通期業績予想の修正

ミッション3の売上計上の遅れ、及び月保険の保険金を受領したことを踏まえ、通期業績予想を修正

(単位:百万円)	2024年3月期	2024年3月期		
	修正予想	当初予想	増減率	増減
売上高 ⁽¹⁾	3,050	6,196	△50.8%	△3,146
売上総利益	1,114	1,408	△20.9%	△294
売上総利益率	36.5%	22.7%	-	13.8%
販売管理費	8,296	8,527	△2.7%	△231
営業損益	△7,182	△7,118	-	△64
経常損益	△8,297	△7,885	-	△412
当期純損益	△4,504	△7,889	-	+3,385

Point

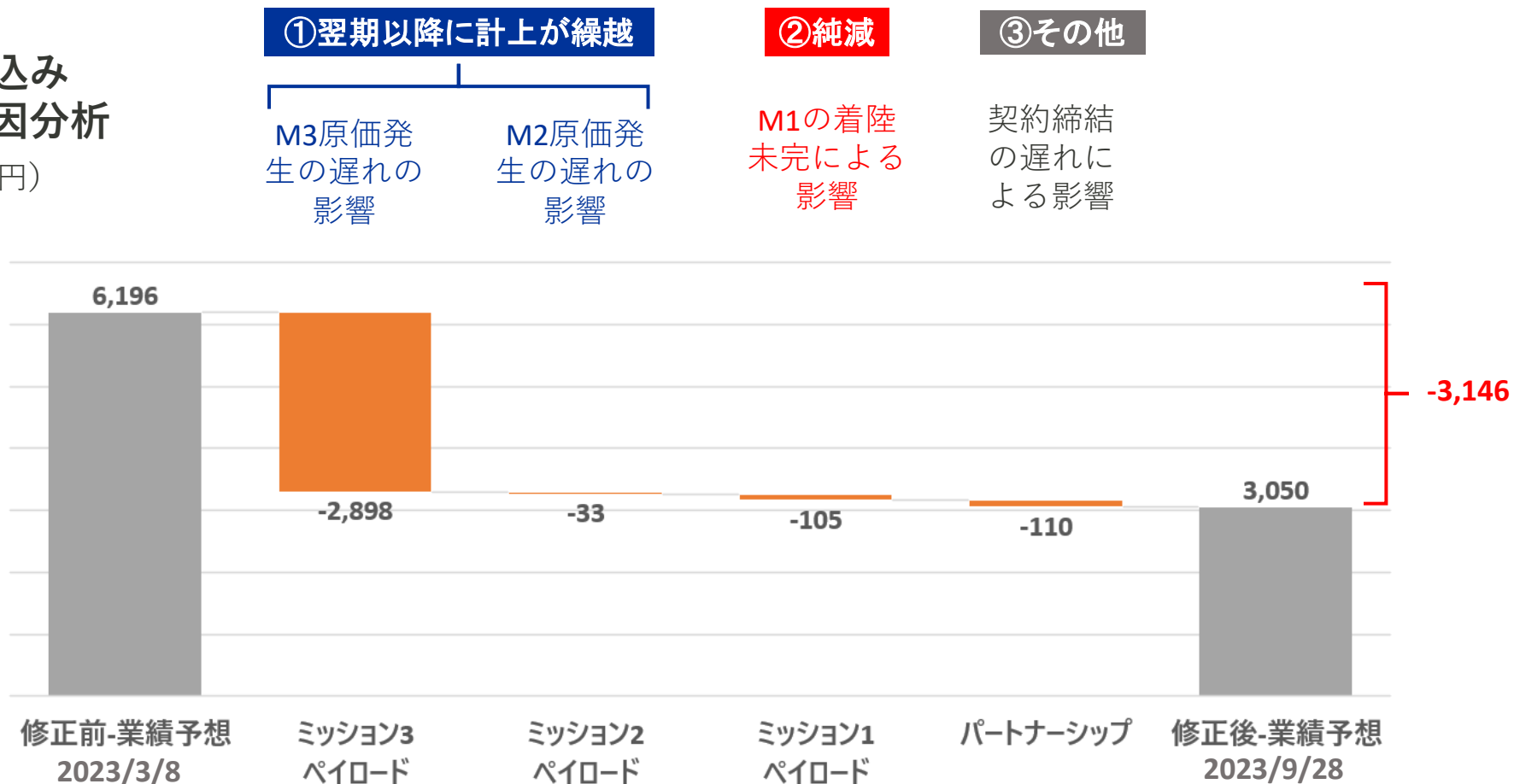
- **売上: △3,146百万円**
下落の大半は、ミッション3ペイロード・サービスの売上高の計上が当初計画対比で遅れたことによる影響
- **売上総利益: △294百万円**
 - ミッション1の月面着陸未完によるペイロード・サービスの減少(△116百万円)
 - 計画対比で契約締結が遅れているパートナーシップ・サービスの影響(△178百万円)
- **当期純損益: +3,385百万円**
保険金受領による特別利益の認識が主な増加理由

(1) 当社は現在、ミッション1-3の売上計上においてそれぞれ原価回収基準を会計処理に用いており、原価としての費用発生分が売上に計上されるため、費用発生が増加に連動して売上が増加する見込み。ミッション完了時に原価発生分を超える売上が未計上の場合には一括で売上処理される仕組み

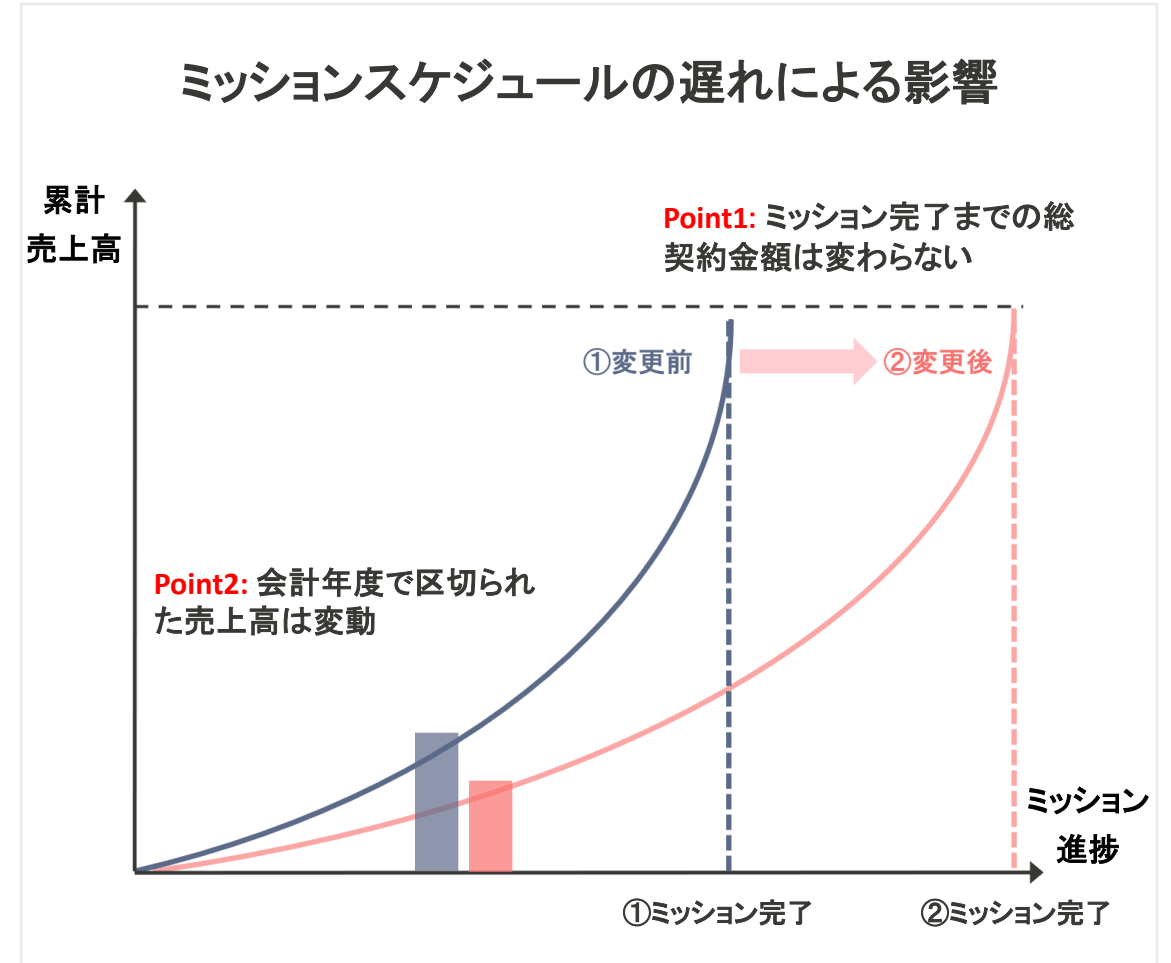
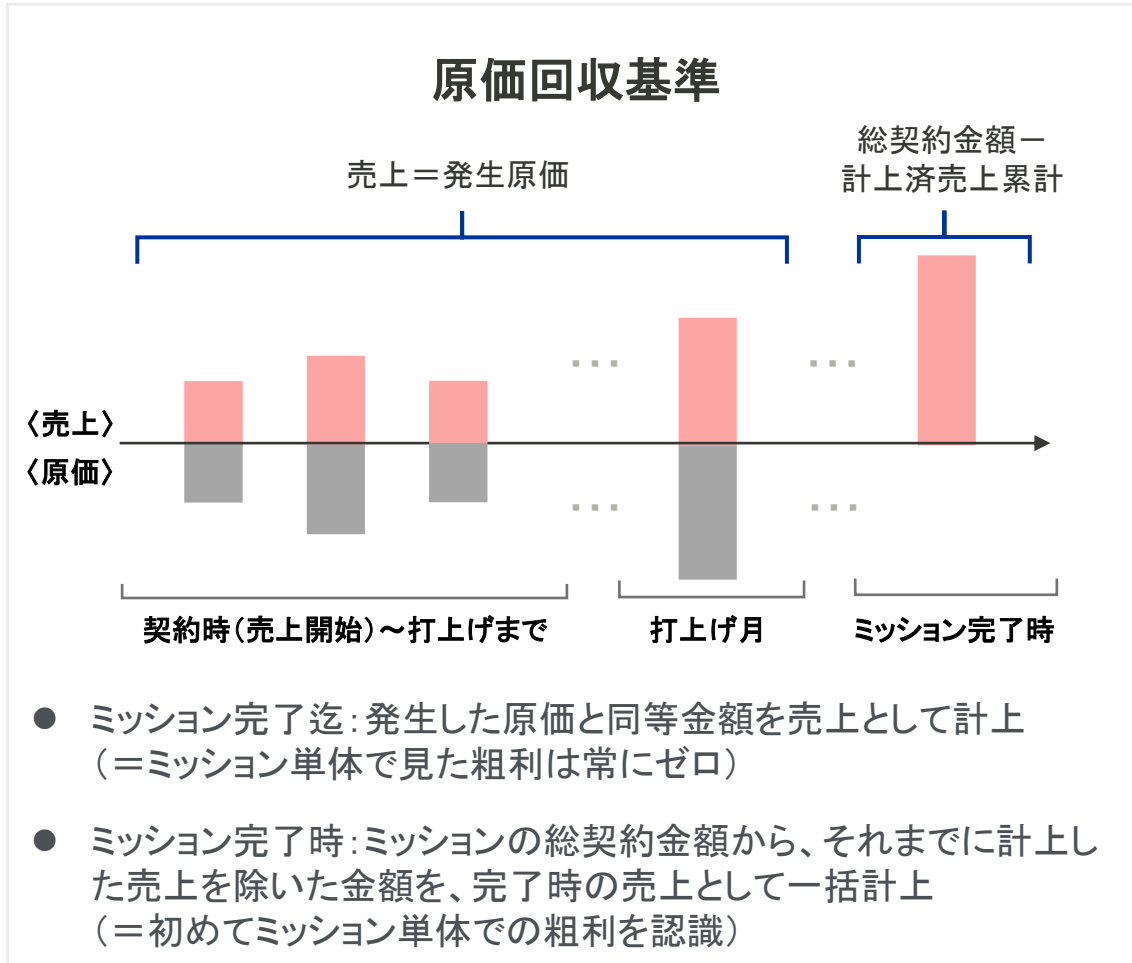
(再掲): 今期計上予定であった売上は、約31億円減少見込み。ミッション3の売上原価の計上遅れにより、同額分だけ売上高も減少することが主な要因(原価回収基準)。ミッション全体の売上見込みの純減は限定的

売上高見込み 減少の要因分析

(単位：百万円)

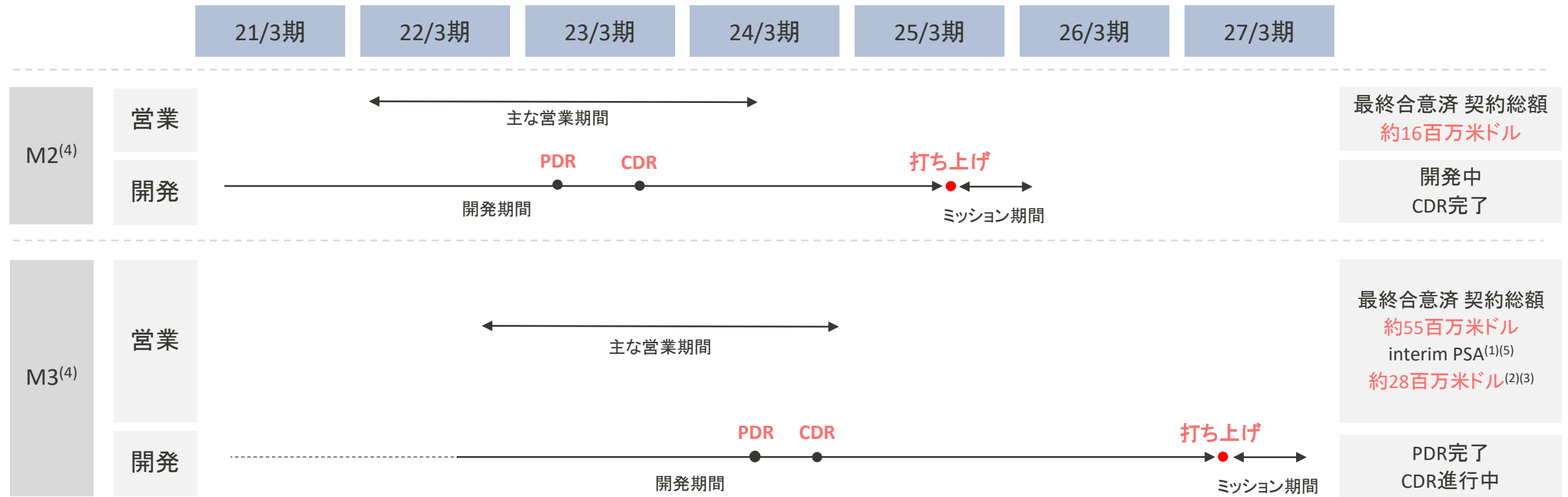


原価回収基準の適用により、売上計上は発生原価に連動。会計年度ごとの売上変動は必ずしも営業進捗を反映していない



当社KPI

(アップデート) : M3ランダー開発のすべてのPDRが完了し、今年度中のCDR完了を目指す計画。営業面では引き続きinterim PSA⁽¹⁾の最終合意化及び政府・民間の両面から新規PSAの獲得を目指す



(1) Interim Payload Service Agreement ペイロードサービス中間契約：最終合意となるPSA契約を締結するための交渉の前提となる文書 (2) 2023/9/28時点

(3) ミッション4以降となり得る金額を含む (4) M2以降は現在の想定スケジュール

(5) interim PSAは法的拘束力を有しないものであり、これらのinterim PSAに基づき法的拘束力のある契約を締結できる保証はありません。また、仮に法的拘束力のある契約が締結されたとしても、当該契約に基づく重量及び金額は、本資料に記載された金額と異なる可能性もあります

ビジネスモデルイメージ

(アップデート):ペイロードサービスのビジネスモデルイメージ

イメージであり、変更される可能性があります。また、全ての数値は小数点以下切り捨てとなっています



各会計年度に計上されるミッションの売上⁽²⁾

						FY24/3	FY25/3	FY26/3	FY27/3	FY28/3	FY29/3
M1	30kg	12kg		12kg	\$10MM						
M2	30kg	11kg		11kg	\$16MM		L				
M3	300kg	145kg		95kg (CP-12) 50kg	\$55MM			L			
M4	500kg	33%	167kg	30kg	137kg				L		
M5		33%	167kg	30kg	137kg				L		
M6		39%	196kg	45kg	151kg				L		
M7		39%	196kg	45kg	151kg					L	
M8		42%	211kg	50kg	160kg						L
M9		42%	211kg	50kg	160kg						L
M10		44%	219kg	50kg	168kg						

(1) 本資料は、将来のペイロードサービスに関して、一定の仮定に基づき想定している現時点のイメージであり、ミッションの内容・時期その他の詳細は実際の将来の結果とは異なる可能性があります
 (2) 2023年9月28日時点の打ち上げ予定に基づきます。このスケジュールは変更される可能性があり、計画通りに進行しない可能性もあります
 (3) ペイロード販売可能重量が設計上のミッション搭載可能ペイロード重量に占める割合であり、一定程度のバッファを見込んだ値となっています。主に以下2つの要因により制約を受けます。①開発における不確実要因(ランダー側の不確実要因、顧客ペイロード事由の不確実要因(インターフェース調整等))、②販売成功率(需要及び販売能力の不確実性)

(4) インターナルペイロード重量と顧客の販売可能重量の合計です
 (5) 2023年9月28日時点の当社想定に基づく、当社が使用するペイロード重量です
 (6) M1、M2、M3(CP-12のみ)については、各PSAに基づく契約金額を使用しています
 (7) 2023年9月時点のペイロードの想定単価は約1.5MMドル/kgであり、この想定単価は今後一定程度減速していくと当社は見込んでいます
 (8) 当社の想定する次の要因により、歩留まり率は向上を見込んでいます。①市場の需要拡大、②経験による技術改善及び③販売チームの拡充
 (9) ミッション1のSuccess 9-10が完了出来なかったことに伴い、売上計上不可となった金額は約106百万円で確定(2023年4月26日開示の通り)